東京ハ開化進歩ハ速ニ
からんと思の外今ハ大間違あり虚言ハい
ひらぬ木所荒井町中島屋の雇人橋立庄吉なる者六月八日まゞ午前の
十一時新吉原京町の石野和助ゞ楼上ハ酒宴の興ハ夜と遠ひ何とゝく
薄けれバ二時頃ハらさや
閨房ハ入り
夫婦ハ
あらふ
ときを
おん
らん

いや
香ロゞふりと煩りハセまれど娼妓小櫻ゝてもつの如
あらさう
挨拶ハ男ハグワツと取のゞせ在うハ刺刀取うり早ゝ已ゞ
のど
咽喉を横ヘ八分深さ二分程傷付たとゝんと痛癪ハも
ゝと
程ゞのる双方承知で相死をするさへ馬鹿の大関ゝいふ
令和

ハて
ちるか
獨自ら
傷付て
醜名を江湖
ハ流すハ自滅の
勸進元ゝもいろん如
世間の若衆ハ
鑒るべしーと。

新聞圖會 第世号

○真事誌
百三十八号ゝ出たり

八尾善松